

# 授業の改善が必要（社会科）

泊 善三郎

（文教大学教育学部）

## On an Improvement of Lessons of Social Study

TOMARI ZENZABURO

（Faculty of Education, Bunkyo University）

### 要 旨

本文は平成13年度に実施された、教育課程実施状況調査の小中学校社会科の結果について、報告書から調査結果と今後の課題についてさぐろうとするものである。

調査はペーパーテストと質問紙調査があり、前者は小中学校社会科の内容別と観点別に分析できるように問題が作成されている。また、前回の調査問題を一部入れて比較できるようになっている。後者は意識調査である。本文は両者の内容を絞って考察した。

### はじめに

教育課程実施状況調査はペーパーテストと質問紙調査がある。その報告書は膨大な量であり、要約するだけでも大変であるので、ペーパーテストについては設定通過率を下回ったものを中心にみることにした。

また、質問紙調査も社会科に係るものに絞って結果をみることにした。

### ペーパーテストの結果について

#### 1 小学校第5学年

##### ① 全般的な状況

調査報告書では次のように述べている。

「通過率が設定通過率を上回るもの（調査報告書では、『上回ると考えられるもの』と

いった表現になっているが私は断定的な表現にする。）又は同程度のもの問題数の合計は、75問中50問と全体の問題数の半数以上を占めており、実現状況はおおむね良好といえる。

なお、前回と同一の問題については、19問中通過率が前回は有意に上回るものが2問、前回と有意に差のないものが5問、前回は有意に下回るものが12問であり、前回は有意に下回るものが全体の過半数を占めている。」

全体的にはおおむね良好な結果だったとはいえ、前回と同一の問題では半数以上ができなかったということは今後の課題である。

##### ② 内容別・観点別にみた結果

設定通過率を下回った問題だけをみると内

容別では、内容(2)の「我が国の工業生産の特色と国民生活との関連」の通過率が17問中9問と半数以上悪い結果である。また、観点別では「技能・表現」が30問中12問も下回っている。さらに、前回と同一問題で下回っていた12問中の4問が「技能・表現」である。

### ⑤ 指導上の改善点

75問中最も設定通過率を下回った問題はA6(1)イで、資料から我が国の主な「貿易相手国・地域」を読み取ることができる問題で、-44.1下回っている。設定通過率を下回った多くは「技能・表現」の問題であることから、報告書の「指導上の改善点」にあるように、我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特色、我が国全体の工業生産の現状や特色などをとらえる際、地図や統計などの各種の基礎的資料を丹念に読み取ったり、それらを複数関連付けて活用することができるように指導を充実させることが必要である。

## 2 小学校第6学年

### ① 全般的な状況

第6学年では、81問中71問が通過率を上回り又は同程度で、おおむね良好であった。なお、前回と同一の問題では、28問中16問が前回より下回り、5学年同様過半数を占めているが、5学年よりはやや良い結果であった。

### ② 内容別・観点別にみた結果

設定通過率を下回ったのは、内容(1)の「我が国の歴史上の主な事象」で57問中8問、内容(3)の「我が国と関係の深い国の様子や国際社会における我が国の役割」で12問中2問である。また、観点別では知識・理解が48問中6問、思考・判断が15問中4問、関心・意欲・態度が16問中1問下回っている。

前回と同一問題で下回った16問中11問は知識・理解の問題である。

### ⑤ 指導上の改善点

歴史学習では人物の働きや代表的な文化遺産を中心に展開するようになっている。

設定通過率を下回った問題は人物に関するものが多いことから、報告書にあるように、取り上げる人物について、歴史的事象との関連でなぜその人物が取り上げられているのかという視点をより明確にした指導の工夫改善を図ることが必要である。

## 3 中学校

### ① 全般的な状況

通過率が設定通過率を上回るか同程度の問題が、第1学年は102問中62問、第2学年は100問中66問、第3学年は97問中67問といずれも全体の問題数の半数以上を占めている。

なお、前回と同一問題で前回は下回っているのは、第1学年は31問中16問、第2学年は27問中18問、第3学年は22問中10問である。第1学年及び第2学年は過半数を占めている。小学校同様今後の課題である。

### ② 内容別・観点別にみた結果

#### ア 地理的分野

##### ① 第1学年

設定通過率を下回ったのは、51問中20問(39%)である。そのうち内容(1)アの「世界の国々」に関する問題は16問中8問、また、内容(1)アの「人々の生活と環境」に関する問題は17問中3問、さらに、内容(1)の「イ様々な地域」に関する問題は18問中9問下回っている。②のほかは半数が下回る結果であった。

##### ② 第2学年

設定通過率を下回ったのは、48問中13問(27%)である。そのうち内容(2)の「ア世界から見た日本」に関する問題は12問中4問。内容(2)の「イ身近な地域」に関する問題は13問中4問。内容(2)の「ウ日本の諸地域」に関する問題は14問中4問でいずれも約30%以下であった。内容(3)の「ア日本と世界の結び付き」に関する問題は9問中わずか1問である。第2学年の通過率はおおむね良好であったと言える。

## イ 歴史的分野

### ① 第1学年

問題数51問中設定通過率を下回ったのは21問(41%)である。そのうち多いのは内容(2)の「古代国家の歩みと東アジアの動き」に関する問題で20問中7問、内容(3)の「武家政治の展開とアジアの情勢」に関する問題で18問中11問である。内容(3)は設定通過率がほとんど40~50%であるのに対して下回っており良い結果とは言えない。

### ② 第2学年

問題数52問中設定通過率を下回ったのは21問(40%)で第1学年とほぼ同じ結果である。そのうち特に多いのはないが、内容(5)の「幕藩体制と鎖国」に関する問題は12問中5問、内容(6)の「世界情勢の変化と幕府政治の行き詰まり」に関する問題は9問中4問、内容(7)の「近代日本の歩みと国際関係」に関する問題は16問中5問、内容(8)の「二つの世界大戦と日本」に関する問題は13問中5問、内容(9)の「現代の世界と日本」に関する問題は2問中2問下回っている。内容(9)以外では内容(6)の割合が高い。

## ウ 公民的分野

問題数97問中設定通過率を下回ったのは30問(31%)である。内容(1)の「現代の社会生活」に関する問題は22問中4問と少ない。内容(2)の「国民生活の向上と経済」に関する問題は33問中12問、内容(3)の「民主政治と国際社会」に関する問題は42問中14問が下回っている。

## エ 観点別の結果

### ① 地理的分野

第1学年の問題で設定通過率を下回った割合をみると、関心・意欲・態度40%、思考・判断41%、技能・表現44%、知識・理解35%である。

第2学年の問題では関心・意欲・態度0%、思考・判断14%、技能・表現30%、知識・理解39%である。

以上の結果から技能・表現と知識・理解の問題の通過率が低いと言える。

### ② 歴史的分野

第1学年の問題では関心・意欲・態度50%、思考・判断53%、技能・表現50%、知識・理解31%である。

第2学年の問題では関心・意欲・態度0%、思考・判断30%、技能・表現31%、知識・理解50%である。

以上の結果から関心・意欲・態度以外の観点の通過率が低いと言える。

### ③ 公民的分野

関心・意欲・態度0%、思考・表現18%、技能・表現35%、知識・理解35%で後の2つが低い。地理的分野や歴史的分野と比較すると良い方である。

### ④ 指導上の改善点

報告書では次のように述べている。

#### ア 地理的分野

地理的な学び方や調べ方を身に付けさせる指導の一層の充実を図る必要がある。その際、地理的分野の基本的な内容を問う問題の多くが設定通過率を下回る結果となっていることから、身近な地域、都道府県及び世界の国々の地域的特色を追究する学習や、世界的視野及び日本全体の視野から日本の地域的特色を追究する学習の中で、世界と日本の地域構成、自然環境、人口、資源や産業などに関する基本的な内容を活用させ、それらを生きて働く知識として身に付けさせることが大切である。

#### イ 歴史的分野

作業的・体験的学習を通して資料を読み取り多面的・多角的に考察する力を育成することや、考察した過程や結果を適切に表現させる指導の一層の充実を図ることが大切である。また、中世や近現代の基本的な内容についての知識・理解を問う問題の多くが設定通過率を下回る結果となっていることから、歴史の大きな流れの中に基本的な知識を位置付けて身に付けさせる指導の工夫改善が必要である。

## ウ 公民的分野

現代の政治や経済について考えるための基本的な概念を正確に身に付けさせる指導の充実を図る必要がある。社会科では、様々な領域にそれぞれ基本的な概念があり、それを活用して思考を働かすことになるが、その概念は、問題意識をもって思考を働かせることでよりしっかりと身に付くという側面もある。この点も踏まえ、課題解決的な学習や調べたことを発表させる活動を取り入れるなど生徒の主体的な学習活動が行われるよう指導の充実を図ることが大切である。また、同一問題の比較で明らかになったようにニュース等の内容が通過率の変化に影響を与えたと考えられるものがあることから、学習指導においては、公民的分野の学習進度と対応していない時事的な内容について、年間の授業の中で適宜、学習指導の中に取り入れる工夫を行うことが必要である。

### 質問紙調査の結果について

紙数の関係ですべてにふれることができないので、社会科に関係ある質問について取り上げることとする。

#### 1 社会科の勉強は大切だ

そう思うとどちらかといえばそう思うを合計した割合は、5年83.5%、6年81.2%で6年がやや低い。中学1年は67.8%、2年65.9%、3年75.3%で3年がいちばん高い。小中学校を比較すると中学校はかなり低い結果である。

#### 2 社会科の勉強は、受験に関係なくても大切だ

そう思うとどちらかといえばそう思うを合計した割合は、5年71.9%、6年71.2%でほとんど変わらない。中学1年は59.7%、2年58.7%、3年69.6%で3年になると高くなる。前問1との差の意味を知りたいところである。

#### 3 社会科が好きだ

そう思うとどちらかといえばそう思うを合計した割合は、5年52.3%、6年54.1%で6年の方がやや高く、中学は1年52.0%、2年52.2%、3年52.3%でほとんど変わらない。小中を比較しても学年による違いはほとんどない。他の教科には見られない結果である。

社会科がいちばん低い教科でなかったことに少し安心した。

#### 4 社会科の授業はどの程度分かるか

よく分かるを合計した割合は、5年64.1%、6年57.3%、中学1年47.9%、2年49.7%、3年50.8%である。よくて6割、半分も分からない学年があり指導の工夫が必要である。

### 終わりに

調査問題全体に対する結果は、設定通過率を上回るか、又は同程度ということでおおむね良好という結果であった。しかし、前回の問題については、どの学年も下回った問題が多かった。その理由がわからないのが残念であるが、このことをもって学力が低下しているとは言えないであろう。

内容別より観点別にみた結果から、今後の指導について、工夫したり力を入れたりしなければならぬ点が見られるが、各学校において指導計画の見直しや指導方法の改善が望まれるところである。